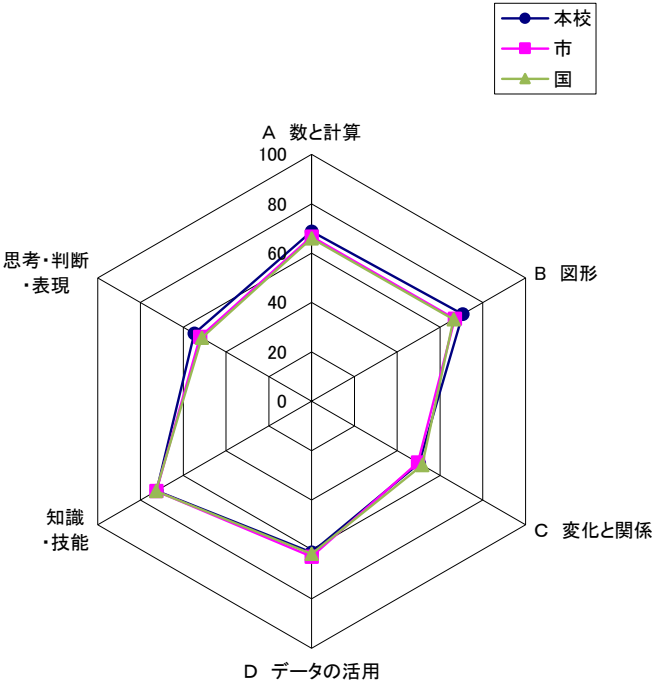


宇都宮市立富士見小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.8	66.7	66.0
	B 図形	70.6	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	50.2	49.6	51.7
	D データの活用	61.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	72.5	72.6	72.8
	思考・判断・表現	54.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○本領域の平均正答率は68.8%で、国の正答率を2.8ポイント上回った。 ○「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」の平均正答率は67.9%で国の平均を11ポイント上回っている。 ●「問題場面の数量の関係を捉え、式に表す」の平均正答率は49.5%で、国の平均を12.6ポイント下回っている。	・問題文の内容を捉える際に、図に表したり簡単な言葉でまとめたりして、何を求めるのかを明確にして考えるよう指導する。 ・問題文を解くにあたっては、立式させるだけでなく、問題文のどの部分を根拠にその式になったのかを発表させたり、記述させたりする活動を取り入れていく。
B 図形	○本領域の平均正答率は70.6%で、国の正答率を4.3ポイント上回った。 ○「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する」の平均正答率は78.9%で、国の平均を6.9ポイント上回っている。 ○「直方体の見取り図について理解し、かくことができる」の平均正答率は90.8%で、国の平均を5.3ポイント上回っている。	・正方形、長方形、三角形、平行四辺形、台形など基本図形の面積の求め方や性質について、練習問題を繰り返し行い、定着を図る。また、複合図形などの応用問題にも取り組ませていく。 ・角柱や円柱の性質についても、辺、頂点、面の数や位置に着目して考えるよう指導し、練習問題を繰り返し行って定着を図る。
C 変化と関係	●本領域の平均正答率は50.2%で、国の正答率を1.5ポイント下回っている。 ○「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」の平均正答率は71.6%で、国の平均を1.6ポイント上回っている。 ●「速さの意味について理解している」の平均正答率は48.6%で、国の平均を5.5ポイント下回っている。	・「速さ」と「時間」と「道のり」の関係や、それらを求める問題に、繰り返し指導していく。朝の学習の時間や宿題等で計画的に取り組ませていく。 ・身近な課題を取り上げた問題を数多く設定し、応用力を養っていくことにも努める。
D データの活用	●本領域の平均正答率は61.2%で、国の正答率を0.6ポイント下回った。 ●「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する」の平均正答率は54.1%で、国の平均を4.8ポイント上回っているが、高くはない。 ●「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる」の平均正答率は75.2%で、国の平均を5.6ポイント下回っている。	・「基準量」、「比較量」、「割合」を求める基礎問題に繰り返し取り組みせ、その中でそれぞれの意味や関係を確認し、理解を深めさせていく。また、割合のグラフをかくだけでなく、グラフの数値を読み取り、それを活用する問題や経験にふれさせる活動を多く取り入れていく。